

# 事業報告書

令和6年度



公益財団法人 紫雲会

横浜市緑区生活支援センター

## 令和6年度 緑区生活支援センター事業報告書

ここ数年は制限のある運営を余儀なくされましたが、6年度は通常に近い形での運営を心がけました。その中で今年度を振り返り、「地域連携」をポイントにした取り組みをいくつか実施することができました。

### ① 「利用者にはリフレッシュや楽しい時を共有してもらえる機会」

これまで制限があった分、今年度は工夫して楽しめる機会を持ちました。季節ごとの行事やバスハイク等々、区内の各関係機関や家族会等々に多大なご協力を頂き、協働した開催を行いました。

### ② 「異業種からの相談」

今年度特記すべきは、消防署からの相談です。救急車の頻回利用者に関わる相談として、消防署の職員、救急隊員、警察、区福祉保健センター、支援センターの嘱託医も含めて複数回の支援会議を実施しました。職種による関わり方の大きな違いも痛感しつつも、お互いの理解と地域連携に繋がりました。

### ③ 「緑区精神保健福祉サービス案内業務」

区福祉保健センターの中にセンター職員が出向き、新規手帳取得者に福祉サービスの案内をする業務として2年目の実施となりました。目的とした連携強化に加え、次年度は当事者の活躍の場としての新たな目的を目指していければと考えます。

### ④ 「みどりハートまつり」

緑区内で精神障害者の方が利用できる福祉サービス事業所を全17か所掲載したマップを作成しました。新人職員が全事業所を訪問した上で作成した成果物であり、今後大いに活用していければと思います。

引き続き各関係機関との連携、協働体制を強化し、地域での人材育成と相談支援体制の拡充を目指し、地域における精神保健福祉活動の拠点としての機能と役割を担うべく努力してまいりたいと思います。

## \*\*\* 【事業実施内容】 \*\*\*

### 1. 指定特定・指定一般相談支援事業

計画相談支援については、単にサービス利用を目的とした関わりではなく、地域において本人の希望する生活を実現するための包括的な支援を継続していくことを目的とし、取り巻く関係機関との連絡調整や家族調整、状況に応じた臨機応変な対応など総合的な支援を実施してきました。また、地域の関係機関から関わりに苦心しているケースの相談を受けることも多くありました。家族支援が必要なケースや対応に苦慮するケース、病状が安定せず緊急対応を余儀なくされるケース、また触法ケースなど、いわゆる困難ケースに対する支援は生活支援センターが特に対象とするケースと考えており、多職種間で連携しながら意識的に支援を実施しています。

相談員の支援の質を担保するためにも、横浜市や自立支援協議会など各団体主催の研修への参加を推奨してきました。さらに、研修を企画・運営することにも力を入れ、研修企画検討委員会への継続した参画や、初任者研修の統括、現任研修等のインストラクターとして職員を派遣するなどし、横浜市の相談支援従事者育成にも協力してきました。さらに今年度初めて、緑区自立支援協議会において、緑区と青葉区の主任相談支援専門員と合同で「初任者研修インターバル実習」を実施し、区域を越えた相談支援専門員の育成と主任相談支援専門員の活用にも取り組みました。

また、対象者の支援方針、支援計画の立て方や方向性についても職員間で共有し意見交換することや、職場内において先輩職員から経験の浅い職員に対してのスーパーバイズの間を積極的に設ける等、支援する側が孤立する事の無いよう配慮しました。

【6年度実績】 計画相談支援 48件 地域移行支援 2件 自立生活援助 2件

## 2. 地域活動支援センター事業

### (1) 相談支援

計画相談支援と同様に、利用者の思いや希望に寄り添い、環境や状況に配慮しながら支援を行ってきました。今年度は特に、意思決定支援と権利擁護について考えさせられるケースが多くありました。例えば、障害のある子をもつ利用者家族に対し、支援者間で認識をすり合せながら役割分担し、家族全体の意向や方針を整理し支援をしたケースがありました。また、精神科病院から退院した後に寝たきり状態となった利用者への支援に関し、自宅で生活したい利用者や家族の思いを大事に受け止めながら、医療機関と密に関わったケースもありました。そして、ささいな出来事でも支援拒否や不適切行為に至ってしまう利用者に対しては、緑区福祉保健センターと基幹相談支援センターとで連携し、その利用者につながる言葉を選びながらニーズを探るなど、意思形成への支援を丁寧に実施しました。

上記のような困難ケースの対応には多職種連携が必須と考えています。それら連携した支援を実施することで様々な関係機関とのつながりが強くなり、センターの役割が地域に広く知れ渡るきっかけにもなっていると感じます。そして、消防署から救急車の頻回利用者への対応に苦慮されているケースの相談を受けることがありました。複数回の支援会議への参加や嘱託医相談の活用などを通し、お互いに理解を深め、多職種にて一緒に対応を検討しました。特に嘱託医相談に関しては、医療の立場からのアドバイスが得られる機会となり、福祉職や異業種である消防署などにとっても必要不可欠な相談の場となると同時に、嘱託医相談の新たな活用にもつながったと考えています。

利用者の意思を尊重した生活を目指すため、利用者ひとりひとりの思いに寄り添い、必要に応じた支援につなげるなどのプロセスを重視し、今後もチームでの支援を行っていきたいと考えます。

### (2) 訪問・同行

今年度も感染症予防に配慮しながら、積極的な訪問・同行を実施してきました。訪問を続けていくためには関係性の構築が重要であり、日常的な会話から生活支援の場などでも意識することを重視し、支援を実施しています。その結果、緊急対応や不穏時の入院対応など関わる際、関係性が築けていたことで、よりタイムリーに対応をすることができると考えます。センターフリースペースの利用を通して関係性を築いてきた利用者に対し、自宅訪問や訪問看護との情報共有の実施、そして地域の中で不穏となり警察対応になった時には迅速に訪問や通院同行を実施することができ、入院に至ったケースがありました。

ただし、定期的な訪問を続けていたとしても、突然の体調の急変に対応が出来ず、自宅で倒れられていたケースがありました。サービス事業所と連携し、幸いにも警察官対応にて一命を取り留めることができましたが、当時の対応については反省すべき点がありました。利用者や環境面などへの気づき、緊急対応についてのリスク管理の大切さなど再確認すべきことが多くあり、今後の支援に汎化すべく職員間での振り返りや意見交換を実施しました。

緊急対応には迅速かつ適切に対応していく思っていますが、地域には緊急性を伴うケースだけではなく、潜在的問題を抱えたケースも多く存在していると考えます。ひきこもり状態の方、8050 問題などに対しても積極的に関わり、今後も問題解決に向けて訪問や同行を実施していきたいと思います。

### (3) 家族支援

家族支援におけるセンターの役割は、具体的な支援や問題解決を目指すことはもとより、家族にとっても相談ができる場であることも重要だと考えます。利用者家族からの相談で支援が始まったケースでは、関わり方や通院の在り方の相談、そして家族の不安や心境などの傾聴も行き、センターの関りにより安心感を得られたと言葉をいただきました。今後も家族の思いにも寄り添い、センターが家族にとっても拠り所なるよう努めていきたいと思います。

## ○緑区家族会

緑区家族会とは、センター職員の家族会定例会へのオブザーバー参加、家族会からはクリスマス会への協賛や精神部会参加など、良い関係の中でお互いに関わり合うことができました。定例会には新規参加者を含め、毎回約 20 名の家族が参加されます。福祉制度や社会資源などの情報提供を求められた時にはなるべく分かり易く伝わるよう努めました。また、基本相談の中において、家族から相談を受けた際には、必要に応じて家族会につなげるよう心がけました。家族会の存在が支えとなっている方も多く、家族会との関係や協力体制をより強固にしていくと同時に、家族支援の視点も重視して関わっていきたいと思います。

\* みどり会定例会・役員会 → 隔月で実施

\* 家族教室 → 新型コロナウイルスの影響で中止。次年度は実施の方向で区福祉保健センターと検討中

## (4) 当事者活動支援

支援センターのプログラム実施においては、「当事者との協働」を念頭に、利用者の意見を取り入れていくことを意識して支援を実施しました。「手芸サークル」では利用者間で話し合い、コスモスフェスタに向けて「タペストリー製作」を目標としました。無理のないスケジュールを調整し、コスモスフェスタの当日には見事完成することができました。その後も支援センターフロアに飾り、クリスマス会などにて多くの方々に披露目しています。

また、福祉職を対象とした研修をケアプラザ等と企画し、センターが関わっている利用者に体験談の発表などパネルディスカッションを実施しました。このようにセンターが企画に関わった研修や、地域に向けた啓発活動、様々な実習の場面においても、動画視聴という形式を活用しながら、利用者自身の思いや生活を語ってもらう機会を設けることができました。

\* 「手芸サークル」年 12 回開催 59 名参加

\* 「センター連絡会 ピア会主催」ピアサポートプログラム見学会参加／ピア座談会参加

\* 「本人を交えたチーム支援について」地域ケアプラザ等との合同研修 当事者参加 1 名

\* 「東洋英和女学院大学 公認心理士実習」当事者インタビュー動画 3 名

\* 「横浜市市民後見人養成課程・体験実習」当事者インタビュー動画 2 名

## (5) 地域交流・地域連携

### 【緑区自立支援協議会での取り組み】

#### ○事務局運営

緑区自立支援協議会においては、事務局として企画運営に携わっています。部会運営に協力してくださる事業所も増え、より広い視野での企画につながっています。また、参加者や部会のニーズを捉えた研修企画も今年度の特徴のひとつです。虐待防止研修のニーズに対しては、権利擁護と意思決定支援も含めて「淑徳大学・鈴木敏彦副学長」に研修を実施していただきました。さらに当日参加できなかった方にも動画配信により受講していただける環境も作りました。参加者の意見やニーズを反映した協議会作りが、参加者の増加につながっていくと考え、今後も広く取り入れる仕組みを続けていきます。

#### ○精神部会

今年度も「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築と連動させながら、精神部会を実施しました。「当事者が活躍できる場」を目指し、病院や訪問看護、就労移行事業所と一緒に部会を企画運営することができました。また、当事者参加については動画を活用し、当事者自身の声で心境や生活の様子を語ってもらうことが実現し、参加された多職種間で共有を図ることもできました。

## ○相談支援従事者初任者研修 インターバル実習

初任者研修における区域でのインターバル実習の実施に関し、今年度は主任相談支援専門員の活用と、受講生が実務を始めた際の相談先の幅を広げることを目的として、緑区と青葉区の主任相談支援専門員を中心に企画・運営をしました。区域を越えた視点やつながりを持つことは、相談支援専門員の育成や地域づくりにも役立つと考えます。

## ○横浜市自立支援協議会との連動

横浜市自立支援協議会の進捗状況は、事務局会議や全体会にて定期的に共有を図りました。また、意思決定支援の取り組み推進に向けた「支援のヒント集」の作成に関し、区内事業所にアンケートを依頼し、困りごとや取り組み事例などを集約して市協議会に提出しました。市協議会との連動を通し、緑区全体として意思決定支援を考えていく足掛かりにもなり、意思決定支援の研修実施にもつながりました。

## 【地域ケアプラザとの連携】

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を進めていく中で、地域ケアプラザが進める「地域包括ケアシステム」と繋がりを持つことができ、高齢介護分野との関わりが増えました。さらに地域ケアプラザからの相談も増えてきており、今後も活動やケースを通して連携を図っていきたいと考えます。

- \* 「山下地域ケアプラザ 定例カンファレンス」(3ヶ月に1回)：山下地区のケースの共有を行い、実際に一緒に訪問し、継続的な支援に繋がるケースもありました
- \* 「東本郷地域ケアプラザ 出張個別相談会」：地域の方に向けた相談会を実施しました

## 【緑区精神保健福祉サービス案内業務】

昨年度より緑区福祉保健センターから委託を受け、精神保健福祉手帳新規交付者への福祉サービス案内業務を実施しています。その説明を通して公的制度やセンターの紹介なども行い、センター相談にもつながったケースもありました。昨年度までは区福との連携強化を目的に実施しましたが、次年度は当事者活動の場として活用したいと検討しており、新たな目的に向けて事業を進めていきたいと考えます。

- \* 実施回数：32回、実施件数：104件、場所：緑区役所 相談室

## 【その他】

合築施設のおおぞらと地域交流を目的とした協働イベント「コスモスフェスタ」を実施しました。昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策を念頭に、屋外(おおぞら駐車場)をメインとして、大人から子供まで楽しんでもらえる新たなコスモスフェスタを実施することができました。

- \* みどりコスモスフェスタ(開催日：令和6年9月21日、来場者数：約300名)

## (6) 自主事業

※詳細については【資料4】参照

仲間と一緒に楽しめる機会や場作りは、支援センターの大切な役割の一つであると考え、行事やプログラムを実施してきました。季節を感じる行事、緑区の自然や資源を活かしたプログラムなど、利用者の生活が少しでも豊かになるように企画してきました。また、12月に開催したクリスマス会では、事前準備、当日準備の段階から家族や区内の事業所の協力を得ながら運営を行うことができました。感染症対策なども検討しながらも、事業所と協力をして行事を運営する楽しさを改めて感じ、参加された方々と職員も一緒に楽しむことができました。

コロナ禍以降、人数や募集方法、内容などについて、感染症対策への配慮・予防に努めてきたからこそ新しい工夫が生まれています。今後も参加された皆様と楽しい時間を作っていきたいと考えます。

## (7) 情報提供

法制度の情報や様々な社会資源の情報（グループホーム募集情報、就労関係、企画イベントなど）や各種感染症情報など、「センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック」など様々な方法を用いて利用者や家族、関係機関等に提供しました。館内掲示は見やすくなる工夫を心がけ、情報も適宜更新していきました。また情報提供の重要なツールであるホームページでは、ウェブアクセシビリティを整備すること、ブログ機能を活用したタイムリーな情報発信をすることも行いました。

## (8) その他

利用者アンケートや意見箱及びメンバーとの意見交換などから寄せられた意見や提案については、職員ミーティング、職員全体会議にて迅速に協議し、掲示や個別の対応にて利用者へ回答し、内容の周知にも努めました。今年度は特に利用者アンケートを大きく見直し、センターに対する思いやピア活動に関する意見を聞く機会を設け、今後の様々な活動につなげていきたいと考えています。

## 3. 退院サポート事業

※統計については【資料2】参照

今年度も感染症対策を病院と確認しながら、「9名（地域移行支援利用者2名含む）」の個別支援を実施しました。昨今の現状は入院期間の短縮化であり、帰来先設定やサービス利用設定などスピード感を持った支援が求められるケースがありました。一方で、病状が安定しないことや、高齢化や身体機能低下なども影響し、入院が長期化しているケースも多く支援してきました。希望や状態を確認するだけでなく、現在の状態を受け入れた環境設定を病院とも協議し、利用者に寄り添った支援を実施しました。

普及啓発活動に関しては、2か所の病院と一緒に活動を実施することができました。病院職員（ワーカーや看護師、作業療法士など）に向けて、センター紹介や社会資源紹介を実施した活動と、病院側からの高齢者支援を考えたいとの要望に沿い、地域ケアプラザ職員を講師に招いた研修を実施しました。

今後も医療機関や受け皿となる地域事業所と一緒に、一人でも多くの退院支援を実施していきます。そして、長期入院の解消や入院を長期化させない対応などを実現させていきたいと考えます。

- \* 「連絡会」3回実施／「事例検討会」3回実施／「北部ブロック会議」4回実施
- \* 「新任研修」1回実施（「個別支援について」発表）
- \* 生活訓練施設・退院サポート事業共催研修「より良い退院支援に向けて」1回実施
- \* 病院職員向け啓発活動「新横浜こころのホスピタル3回実施」「あさひの丘病院1回実施」

## 4. 自立生活アシスタント事業

※統計については【資料3】参照

今年度は計21名の個別支援を実施しました。新規登録者は3名、終了者は1名でした。個別支援の中で重点的に行ったことは、「素早い状況確認」と「診察場面への同席」の2つが挙げられます。

1つ目の素早い状況確認ですが、体調面の心配がある利用者や連絡がつかない時には、フットワークの軽さを活かした迅速な訪問や他機関との情報共有など行い、体調や状況を確認することを大切にしました。普段の生活での様子を把握し、変化に気付いていくことも日々の支援の中で心掛けています。

2つ目の診察場面への同席ですが、今年度はより多くの診察同席を実施しました。事前に利用者や主治医に伝える内容を整理し、自ら伝えていくためのサポートを行ったケースがありました。また、主治医との疎通に課題がある利用者に対しては、支援者が思いや状態を代弁し、関係性の調整も図りました。

令和4年度より月1回実施している職場内の担当者会議では、困り感を感じているケース相談、個別支援計画を作成する上で大切にしていることなどを担当者間で共有することで、人材育成の視点を踏まえた会議となり、これまで以上に充実した会議を実施することができました。

また、昨年度に引き続き自立生活アシスタント委員を務めました。新人研修の場では事例発表を行い、さらに実践研修では企画運営やファシリテーターを務め、人材育成の取り組みにも協力しました。

### \*\*\*【普及・啓発活動】\*\*\*

精神の障害に対する偏見や差別は根強く、その為に地域での生活に支障があると感じている当事者・家族はまだまだたくさんいる印象です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は必須であり、継続して実施していく必要があると考えています。

#### 《講習会・研修会・相談会の開催》

- 「横浜市市民後見人養成課程・講義」内容：当事者理解(精神障害のある方への支援)
- 「緑区社会福祉協議会障害理解講座～精神障害について知ろう～」内容：障害理解や生活について

#### 《リーフレット「みどりハートまっぷ」の作成》

緑区内の精神障害者施設をまとめたリーフレット「みどりハートまっぷ」を作成しました。内容においては、新人職員を中心に、実際に事業所へ足を運び取材を重ねたうえで、それぞれの事業所の特徴を写真と文章で紹介しています。社会資源の紹介という普及啓発が大きな目的ですが、区内事業所や職員同士で話し合いながら、ひとつの成果物を作るという貴重な経験にもなりました。

### \*\*\*【その他】\*\*\*

#### 1. 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下にも包括）」の構築について

緑区自立支援協議会「精神部会」を活用し、連携をしながら支援していることが「にも包括」の構築であり、地域を作っていくことだと確認しながら、協議を進めていくことができました。

今年度は、多職種連携を進めながら「当事者が活躍できる場を作る」を課題に協議を進めました。事務局には精神科病院・訪問看護・就労移行事業所が加わり、それぞれの専門性を活かした企画運営を実施することができました。また、当事者参加に関しても、当事者の思いを聞く内容を企画し、心境や意思決定支援について共有、検討を行いました。さらに家族会、医療機関から継続した参加もあり、様々な視点を交えた話し合いが実施できました。

次年度も引き続き、当事者が活躍できる場を地域全体で作っていければと考えています。そのために、当事者の力も借り、地域のつながりを活かし、にも包括の実現に取り組んでいきたいと思えます。

#### 2. 職員資質の向上・人材育成

より質の高い支援の提供を目的に、外部研修への参加奨励、法人主催の研修、支援センター内部での職員研修会等を実施し、職員としての資質や知識の向上、対人援助職としてのメンタルケアやモチベーションの維持に努めました。外部研修会での講師やインストラクターとして依頼があった際には、双方の人材育成の視点から、積極的に参画しました。また、同法人である中区生活支援センターからの依頼を受け、年4回スーパーバイザーとして事例検討会にも参加しました。

センターの特記すべき点として「新人職員の育成」が挙げられます。新人職員には「担当職員＝スーパーバイザー」をつけ、定期的な振り返りを実施しながら「職場内スーパービジョン体制」を取っていく形が、しっかりと体系化し定着しています。先輩職員に相談するという土台作りができることで、経験を積み重ね、壁にぶつかった時には「相談できる」という意識が、職場内において積み上げられていると考えます。さらに実施状況を「管理者視点、支援者支援の視点、そしてバイザーも育成していく視点」などを交えて「所長主任会議にて共有」できていることも資質の向上に繋がっていると考えます。

職員会議においては、事例の共有とその検討から、各職員への気づきへと繋げる形を、職員同士が自然な形で理解できており、会議においてもグループスーパービジョンを実践することができています。事例提供や論点に沿った発言、そして進行やまとめ方などそれぞれの役割をこなすことも職員のスキルアップに繋がっていると考えます。

## 《今年度実施の職員研修、勉強会等》

### 【伝達研修】

- \* 「横浜市更生支援ネットワーク研修」
- \* 「感染対策の基本と標準予防策」
- \* 「依存症相談支援研修」
- \* 「権利擁護・意思決定支援研修」（虐待防止含む） ※参加または配信動画により視聴
- \* 「カスタマーハラスメント研修」

### 【内部研修】

- \* 「電話相談の対応について」
- \* 「当事者との関わりで心掛けること」 ※職員会議にて当事者インタビューを視聴
- \* 「個人情報保護研修」
- \* 支援困難事例について、職員会議、職員ミーティング等における「事例検討」7回実施

### 【支援センター連絡会主催の交換研修】

中堅職員（入職5～10年目）を対象にして、支援センター間での交換研修を実施しました。緑区からは、南区と鶴見区に一人ずつ実習に行き、職員会議で実習内容の報告を行いました。

## 3. 実習生の対応

公認心理師を目指す東洋英和女学院大学の学生に対し、大学構内にて精神障害への理解を促す実習を行いました。利用者の実際の生活場面や心境などをインタビュー動画にまとめて伝えました。

市民後見人養成課程の精神障害理解を促す講義を担当し実施していますが、今年度はそれに加え、センター実習も受入れ、当事者の生活や現場の様子などを受講生に伝えることができました。

また、PSWを養成する専門学校等からの実習生を受け入れる体制を整え、準備をしていましたが、それぞれの学校から対象者がいないことなどの理由により、今年度の受け入れはありませんでした。

- \* 東洋英和女学院大学 人間科学部 人間科学科：大学構内にて講義実施、参加者14名
- \* 「横浜市市民後見人養成課程・体験実習」内容：精神障害者理解とセンター説明、参加者14名

## 4. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者の生活を意識し、不穏時や緊急時の対策などについて、日頃の職員ミーティングや職員全体会議において検討し、対応策を講じました。さらに、令和6年能登半島地震の現地での活動報告を教訓に、改めて支援センターとしての準備と利用者への啓発を進めていきました。

合築の地域活動ホームとは年2回「合同避難訓練」の実施を行い（今年度：実施1回）、災害時や不穏者への対応方法の共有や、双方の事業所の早朝・夜間勤務体制、緊急時連絡体制の確認等を行いました。

緑区社協福祉施設等分科会では、大規模災害時を想定した訓練の一環として「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」の取り組みを継続的に実施しており、地域間の横の繋がりや近隣施設との顔の見える関係作りに繋がっています。中山町地域防災訓練では、地域での有事における連携体制の確認をするなど、大規模災害時に備えて具体的な備えをすると共に、地域や近隣福祉施設との連携の強化にも努めています。

災害対策は、緑区役所との「福祉避難所に協力する協定」に基づき、災害備品（発電機、サーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）と災害用備蓄品を整備し、使用方法等職員全体で確認する（令和6年8月に実施）など、福祉避難所協定締結施設としての整備を継続して行っています。

### 《福祉避難所としての動き》

- \* 福祉避難所情報共有システム活用訓練 参加
- \* 緑区福祉避難場所連絡会 参加



## **6. 衛生管理**

年2回清掃業者による館内全体の清掃、及び毎月4回緑区内地域活動支援センターによる清掃(委託)、毎月1回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行うなど衛生管理に努めました。特に調理室内の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については食中毒防止の観点からも清潔を保つよう徹底しました。

また各種感染症の対策として、マスク着用のお願いや手洗いの推進、入口自動ドア前・トイレ出入口付近・調理室前等に手指の消毒液の設置、開閉館時や夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル・手すり・椅子等の消毒の実施など、念入りに実施しました。

## **7. 各種感染症対策の実施**

新型コロナウイルス感染が落ち着いてきている状況とはいえ、各種感染症への予防や対策は今後も必要であると考え、できうる限りの工夫と対策を実施しながら、支援センターの運営を行いました。

### **【利用者】**

- ・ 来館時の検温、手指消毒、マスク着用などの協力
- ・ 入浴、洗濯の事前予約制度の設定
- ・ 飲食や密の心配のあるプログラムは慎重に検討をし、感染症対策に留意して実施
- ・ 利用者の健康状況や様子の見回り

### **【館内】**

- ・ 開館・閉館時、食事前後、また適宜に館内の消毒実施
- ・ 空気清浄機等の設置（フリースペース2台、職員室1台、相談室各1台、休憩室1台）
- ・ フリースペース、相談室、静養室など換気や消毒（手指消毒用アルコールの設置）
- ・ 飛沫防止のための設置物（ビニールカーテンやアクリル板の設置）
- ・ 情報発信、予防啓発のチラシなど掲示

### **【職員】**

- ・ 出勤前と勤務前の検温、手指消毒、マスク着用
- ・ 情報共有（県や市からの情報など）
- ・ 使用した部屋や共有物の消毒
- ・ 職員本人や家族の体調不良についての報告

\*\*\*【利用実績】\*\*\*

緑区生活支援センター 年間運営状況 ※ ( ) 内…昨年度実績

【資料1】

|          |              |             |               |
|----------|--------------|-------------|---------------|
| 6年度 開所日数 |              | 308日        |               |
| 登録者数     | 6年度登録        | 28(39)名     |               |
|          | 全登録者数        | 1461(1429)名 |               |
| 利用者数     | 本人           | 2999(2500)名 | 9.7(8.1)名/日   |
|          | 家族           | 250(341)名   | 0.8(1.1)名/日   |
|          | ボランティア・関係機関  | 184(182)名   | 0.6(0.6)名/日   |
| 相談支援     | 電話相談         | 6762(5281)件 | 21.9(17.1)件/日 |
|          | 面接相談         | 720(841)件   | 2.3(2.7)件/日   |
|          | 訪問・同行        | 524(475)件   | 1.7(1.5)件/日   |
|          | 非構造面接        | 533(427)件   | 1.7(1.4)件/日   |
|          | 嘱託医相談：35回実施  | 10(10)件     | 0.3(0.2)件/回   |
|          | 心理士相談：42回実施  | 36(53)件     | 0.9(1.4)件/回   |
| 各種サービス   | 夕食サービス：週3回提供 | 1533(1508)名 | 10.0(10.0)名/日 |
|          | 入浴サービス       | 246(136)名   | 20.5(11.3)名/月 |
|          | 洗濯サービス       | 38(30)名     | 3.2(2.5)名/月   |
|          | インターネットサービス  | 84(51)名     | 0.3(0.2)名/日   |

退院サポート事業 年間実績 ※ ( ) 内…昨年度実績

【資料2】

|  |           |       |     |       |        |    |
|--|-----------|-------|-----|-------|--------|----|
| 6年度 個別支援者数 【退院サポート事業：9(9)名、地域移行支援：2(3)名】 |           |       |     |       |        |    |
| 退院サポート事業                                 | 支援継続      | 6(6)名 | 退院者 | 3(0)名 | 自宅     | 0名 |
|  | 退院後フォロー   | 0(0)名 |     |       | GH     | 2名 |
|  | 相談中       | 0(3)名 |     |       | その他    | 1名 |
| 地域移行支援                                   | 支援実施      | 2(3)名 | 退院者 | 1(1)名 | 退サポへ移行 | 1名 |
| 6年度 普及啓発活動 【計4(5)回】                      |           |       |     |       |        |    |
| 医療機関                                     | 院内職員対象：4回 |       |     |       |        |    |

自立生活アシスタント事業 年間実績 ※ ( ) 内…昨年度実績

【資料3】

|         |      |           |          |           |       |           |
|---------|------|-----------|----------|-----------|-------|-----------|
| 6年度支援者数 |      | 登録者       | 21(21)名  | 相談中       | 1(1)名 |           |
| 支援内容    | 面接   | 22(23)回   | 心理情緒     | 410(398)回 | 衣食住   | 315(249)回 |
|         | 訪問   | 223(191)回 | 医療健康     | 491(331)回 | 対人    | 187(125)回 |
|         | 同行   | 49(48)回   | 消費生活     | 228(207)回 | 就労    | 123(90)回  |
|         | ケア会議 | 11(5)回    | 関係機関との連携 | 119(51)回  | 余暇    | 12(13)回   |

【プログラム】

| 回数  | プログラム名     | 内容                | 場所        | 参加人数 |
|-----|------------|-------------------|-----------|------|
| 12回 | 手芸サークル     | コスモスフェスタ飾り制作      | 支援センター    | 59   |
| 5回  | みどり菜園      | 野菜の作付け、収穫         | 緑市民菜園     | 24   |
| 11回 | 余暇支援       | 動画を使ったバーチャル旅行とクイズ | 支援センター    | 38   |
| 9回  | センターソフトボール | ソフトボール練習、練習試合     | 白山ハイテクパーク | 88   |
| 1回  | スポコンクラブ    | 室内体操              | 支援センター    | 4    |
| 4回  | メンバーミーティング | センター利用について        | 支援センター    | 24   |

【季節の行事】

| 月   | プログラム名     | 内容               | 場所       | 参加人数 |
|-----|------------|------------------|----------|------|
| 5月  | 里山ガーデンお散歩会 | ガーデンフェスタ散策       | 里山ガーデン   | 6    |
| 6月  | ホテル観賞会     | ホテル観賞            | 四季の森公園   | 11   |
| 8月  | 納涼会        | 焼き鳥、ビーチボールスイカ割り等 | 支援センター   | 41   |
| 12月 | クリスマス会     | コンサート、ビンゴ大会      | 支援センター   | 52   |
| 1月  | 初詣         | 近隣の神社へ初詣         | 中山杉山神社   | 6    |
| 2月  | 豆まき        | 地域の豆まきイベントに参加    | みどり福祉ホーム | 10   |
| 2月  | バスハイク      | レインボープラザ、オギノパン   | 愛川町      | 26   |

【専門職相談】

| 回数  | プログラム名 | 内容          | 場所  | 実施人数 |
|-----|--------|-------------|-----|------|
| 38回 | 嘱託医相談  | 精神科医師による相談会 | 相談室 | 10   |
| 31回 | 心理士相談  | 心理士による相談会   | 相談室 | 36   |

【地域交流】

| 回数 | プログラム名   | 内容         | 場所      | 参加人数 |
|----|----------|------------|---------|------|
| 1回 | コスモスフェスタ | あおぞら合同 秋祭り | 合築施設駐車場 | 300  |

【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

| 回数  | プログラム名       | 内容              | 場所       | 参加人数 |
|-----|--------------|-----------------|----------|------|
| 3回  | 出張個別相談会      | 地域の方に向けた相談会     | 東本郷ケアプラザ | 3    |
| 11回 | 家族会定例会・役員会   | オブザーバー参加        | 地域交流室    | 139  |
| 32回 | 緑区福祉サービス案内業務 | 手帳取得に伴う福祉サービス案内 | 緑区役所     | 104  |